

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな) まなべ かずふみ			
真鍋 一史			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな) まなべ かずふみ		青山学院大学総合文化政策学部	
真鍋 一史			
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	AYGa-160701-0 1	2 人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

質問紙法にもとづく多数の国ぐにを対象とする大規模な国際比較調査の全過程を実習をとおして学習した。調査企画、調査票作成は、調査主体が行ない、サンプリング、実査、データ・ファイル作成は調査会社に委託したので、これらについては、調査主体、調査会社から説明を受け、その上で、学生は各自の独自の仮説構成にもとづいて、データ分析を行なった。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：

テーマとして、「国際社会調査プログラム(International Social Survey Programme: ISSP)」の 2008 年「宗教調査(Religion Module)」を取りあげた。領域は、社会学、社会心理学、データ・サイエンス。

2. 調査の内容/概要：

ISSP には、欧米、アジア、南米、アフリカなど、世界の 45 カ国が参加している。日本では 1993 年から NHK 放送文化研究所がメンバーとして調査を実施している。実査は中央調査社が担当した。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：

全国の一般成人男女を対象とする量的調査。日本調査は住民基本台帳から「層化二段無作為抽出法」でサンプルを抽出、「全国 16 歳以上の国民 1800 人」を対象に質問紙調査を実施した。

4. 主な調査項目：

信仰の有無、宗教的信念、宗教的行動、宗教観、幸福感、道徳意識、社会的信頼感、科学と宗教など。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：

日本調査の場合、調査対象者に対して、調査票 (質問紙) を配布し、自記式回答後、調査票を回収する「配布回収法」で実施した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2008 年 11 月 22 日～30 日。日本全国。中央調査社の調査員。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：

1800 人の調査対象者から 1200 人の有効回収数 (66.7%) が得られた。現在、日本で可能な最もレベルの高い調査データといえる。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

「宗教統計調査(文化庁)」と「ISSP 調査」の結果の比較、「宗派・教団への所属」「信仰心」「宗教意識」「宗教行動」の相互の関係の分析、「宗教意識」と「道徳意識・社会的信頼感」の関係の分析など。クロス集計、相関分析、因子分析。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：

以上のそれぞれの次元間の discrepancy/inconsistency をとおして、国際比較の視座から日本人の宗教性(religiosity)の諸相が浮き彫りとなった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

4 月 30 日までに刊行予定。構成は「ISSP 宗教調査」に関するものが 2 本であった。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ず A4 サイズ 1 枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報を DB 化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。